



# 福島のごどもたち とともに・世田谷の会 2014年度の成果報告

1. 活動を通して  
得られた  
情報や経験

# 実施(その1) 夏の保養



35家族、106人

A班:8月12~15

B班:8月19~22

宿舎:

ふじみ荘

大蔵第二運動場



本音を語れる場があることも世田谷リフレッシュの特徴



将来不安を抱えながらも「福島で生きる」ことに肚を据え、新聞取材に応ずる心境になってきた



# 実施(その2) 冬の保養



羽根木プレーパークでの  
運営委員紹介の様子

2014年12/23～26 家族52人(子ども34人)





お母さんボランティアたちが昼食の準備



フィンランドからサンタさんが来てビックリ！

南相馬の保育園が保養受入れ先を探していると教えてくれた

# 実施(その3) 春の保養



2015年3月26日～31日  
16家族53人

# 福島参加者の感想

・子供達の5年・10年後がどうなるか、不安でとてもこわいです。爆発した時、1ヶ月でも避難しなかった事、いまだに後悔しています。

・福島を離れ、世田谷で過ごしてみると、今まで精神的に疲れていたことに気づき、何も心配する事なく過ごせる幸せを感じる事ができました。

・県外に頼れる親類がない私にとって、世田谷の皆さんはまるで親類のような親近感で接していただき、子供以上に私が保養を楽しみにしていました。

・プレーパークで一緒に料理をして、マッサージしてもらって、茶話会で笑って、そういう触れあいが母親もリフレッシュ、リラックスになり本当にありがたいです。

・我慢しないで、もっと手を挙げて声を出して良いんだよ、と言っていた時に、今までの私の中の悩みや不安を全て理解してもらえたようで涙が出ました。それでも、福島が好きなのです。母子共にリフレッシュできました！ ありがとうございます！！

# 2. 活動を通して 得られた 他団体等との連携

# 連携(その1) 行政、社協

世田谷区の共催により、ふじみ荘・大蔵第二運動場を宿舎に借りられている

区教育委員会の共催により、区内全校に募金呼びかけチラシを入れている

社協の共催による募金活動



# 連携(その2) 大学、学生、市民

日大文理学部の  
後藤研と大学祭の中で  
報告と講演会を開催  
(2014/11/1)



津田大介さん  
福島支援を語る  
(2015/1/18  
報告会)



毎回、大学生・市  
民のボランティアが  
活躍(今までに約  
200名)



# 連携(その3) 全国の支援団体など

(1) 311受入全国協議会(56団体)に加入

(2) 都内保養団体の交流(11/24中野ZERO)

中野区、練馬区、杉並区、文京区、世田谷区、東久留米市、東村山市、日の出町、川崎市 の各団体が参加



## 連携(その4) 空き室提供

ふじみ荘の近くで念願の「空き室提供」を受けることができた。遊び道具や事務用品を保管できる。



# 3. 世田谷の 災害対策・復興 まちづくりへの提言

# その時 福島県三春町は 未曾有の原発避難者を受け入れた

三春町の前副町長深谷さんの講演会(2014/5/18)



・基本は自助と共助です。コミュニティーがしっかりしていないと、統制が取れません。しっかりしたリーダーとそれを支える人を多く作ることが最低限の対策です



・行政は日ごろから顔の見える関係づくり、決定力と機動力のある運営が必要です。  
・被災時は計画通りに行かない、応用力強化が必要です。

場所と食材を提供し、避難者は支援者でもあった。

# 提言① 市民編

## 防災の根本課題は、日頃の 「地域コミュニティカ」の向上

当会の活動も「地域コミュニティカ」向上の一翼を担っている

- 力を合わせるべき明確な課題があり、20団体が繋がり、様々な人脈、チャンネルが結びついた。
- 新しい人が加わる仕組みがあり、ボランティアのやりがいを感じて人材が育っている。
- 「せたがや防災NPOアクション」に当会も加入した。



主体性を育む朝のミーティング

## 提言②（行政編）

1. 日常的に区民と顔見知りになっておくこと
2. 災害発生時には、区民を守るために  
独自に情報を集め、最善の判断をすること
3. 情報をオープンにすること
4. 核事故に備え、区内の核施設、核輸送道路  
状況を把握すること